

世界へ繋がる自治体ネットワーク・ UCLG-ASPAC コングレス参加報告 ～自治体外交のすすめ～

シンガポール事務所

1 都市・自治体連合（以下、UCLG）と UCLG-ASPAC コングレス

UCLG は、世界最大の自治体による国際的な組織で、IULA（国際地方自治体連合）、UTO（世界都市連合）、Metropolis（世界大都市圏協会）の統合により 2004 年に発足しました。会員同士の情報交換や相互協力、各種研修プログラムの実施などを通して、地方自治の強化や地方分権の推進、地方自治体の能力向上を図っています。UCLG-ASPAC は、アジア太平洋地域の自治体で構成される、地域支部の 1 つです。現在、日本からは浜松市と静岡市が正会員として、私たち自治体国際化協会（以下、CLAIR）が準会員として参加しており、2010 年には、浜松市で第 3 回 UCLG-ASPAC コングレスが開催されました。

第 4 回となる今回のコンGRES は、10 月 2 日（火）から 10 月 4 日（木）まで、インドネシア共和国ジャカルタ特別市で開催されました。今回のテーマは「Resilient Cities: Rethink, Rebuilt, Revitalize（しなやかで強い都市：再考、再建、再生）」で、本テーマに合わせて下記一覧のとおり、基調講演や分科会が行われました。災害や都市環境問題など、テーマに応じて、地域が抱える様々な問題が取り上げられると同時に、災害時対応やインフラ開発からコミュニティの活性化、市民協働まで、地域の問題に対する具体的な取組の事例等が発表されました。また、都市環境問題の増加に伴い、自治体だけでなく、WHO からは都市交通政策など都市計画と市民との健康との関連性などが報告されました。

コンGRES の最後には、ジャカルタ宣言が採択され、会長・共同会長らによって署名されました。宣言では、本コンGRES のテーマである「しなやかで強い都市」をあらゆる分野における不測の事態や危機を受容することができ、それを内包してなお本質的な機能やシステムを維持し、アイデンティティを持続することができる都市として位置づけました。UCLG-ASPAC は、自らをアジア太平洋地域の民族、宗教、文化、政治的多様性を反映した組織とし、その複雑性は地域の可能性を発展させるための強みと認識すると共に、多様性を容認し、相互理解や平和友好を促進するために、コミュニティ相互の交流に着目することとしました。



ジャカルタ宣言採択

10月2日(火)	<p>開会式</p> <hr/> <p>基調講演</p> <p>①再考 「しなやかで強い」ということー変わる心構え、変化に対応するための準備はできているか？ (Rethink “Resilient -Ready for Change, Ready to Change?”)</p> <p>②再建 インフラ革新ー未来へ続く「道」を創る (Rebuild “Infrastructure Innovations -Constructing the Road to Future)</p>
3日(水)	<p>「再建」に関する分科会（同時進行）</p> <p>①低炭素都市への道（Pathways to a Low-Carbon City）</p> <p>②戦略的な近代インフラ投資のための金融スキーム：成功都市の要因を探る (Financing Schemes for Strategic Urban Infrastructure Investments: Why Some Cities Succeed?)</p> <p>③しなやかで強い都市を実現するために 2012 年から 2015 年に向けた UNISDR のグローバルキャンペーン戦略とツール (Making Cities Resilient UNISDR’ s Global Campaign Strategy and Tools for 2012-2015)</p> <hr/> <p>基調講演</p> <p>③再生 調和のとれた多様性ー意識啓発とコミュニティの活性化 (Revitalize “Unity Diversity -Awakening Consciousness, Empowering Community”)</p> <hr/> <p>「再生」に関する分科会（同時進行）</p> <p>①再生と文化的活力 (Revitalization and Cultural Vitality)</p> <p>②多様性と社会的包括 強くしなやかであるために鍵となる要素 (Diversity and Social Inclusion: the Key Element to Resilience)</p> <p>③強くしなやかであるために構築されるコミュニティ能力 (Community Capacity Building for Resilience)</p>
4日(木)	<p>執行理事会・総会</p> <hr/> <p>閉会式</p>

2 日本からの事例紹介

CLAIR では、10月2日（火）の全プログラムの最後に、シンガポール事務所所長の足達がスピーチを行いました。スピーチでは、「都市の活力を強化する国際的な都市間協力」をテーマに、東日本大震災時の際、姉妹友好都市提携都市の間でチャリティーイベントによる復興支援が行われた事例等を発表し、コミュニティにおける国際交流の重要性や、そ

の効果を紹介しました。これを受け、会場からは地域のリーダーシップの醸成に向けた草の根活動の支援の必要性が指摘されると共に、自治体の役割として、長期的な視点に立った規制・制度設定を進めていくことの重要性が共有されました。

また、3日(水)のセッションには、鈴木康友浜松市長がパネリストとして登壇し、浜松市の多文化共生施策についてプレゼンテーションを行いました

た。浜松市では、入管法改正に伴う南米系ニューカマーの増加以降、日本人市民と外国人市民の共生に向けた各種施策を着実に進めてきたところですが、これまでの多文化共生に関連した取組みでは、外国人市民への「支援」が中心となりがちでした。これは、浜松市だけでなく、日本の多くの都市で同様のことが言えるでしょう。一方、欧州などでは移住者らによりもたらされる文化的多様性を、脅威ではなく好機と捉え、都市の活力の源泉とする「インターカルチュラル政策」が注目されているところです。鈴木市長は、現在、浜松市が外国人も日本人も同じ地域の住民として地域づくりに取り組むことを重要視し、多様性を市の活力として生かすべく、多文化共生都市ビジョンを策定していることに触れ、UCLG-ASPAC 会員と多文化共生をテーマに連携し、多様性を生かした活力ある都市づくりに取り組んでいきたいとして、発表を結びました。



スピーチを行う足達所長



パネリストとしてセッションに登壇した鈴木浜松市長

3 自治体外交のプラットフォームとして

先に、UCLG がどのような組織かをご紹介しましたが、浜松市は、これまで情報交換や会議への参加に止まらず、自治体外交のプラットフォームとして UCLG-ASPAC を活用してきました。例えば、2009 年に開催した国際園芸博覧会である「浜松モザイクカルチャー世界博 2009」では、UCLG のネットワークを生かして会員都市へ同イベントへの参加呼びかけを行い、12 会員都市からの参加を得て、より国際的な活気あるイベントとすることに成功しました。また、定期的なものではありませんが、UCLG-ASPAC での交流をきっかけに、中国・上海市で観光セールスを行ったり、インドネシア・ジャカルタ特別市の知事やネパール・カトマンズ市の首席行政官と両市間の経済交流に関する意見交換を行ったりしています。さらに、中国・瀋陽市とは、観光を中核とした友好交流都市協定を結ぶに至りました。

UCLG-ASPAC の会議には、様々な自治体のトップや幹部が出席します。このため、トップ同士あるいは幹部同士のコミュニケーションがその場で生まれ、強固なネットワーク

の確立が可能になることが大きな魅力の一つです。自治体外交という言葉が生まれるようなグローバル化の波の中で、自治体も、世界各国の様々な自治体と多様な形で交流し、自らの情報発信力を高め、世界で存在感をアピールしていくべきではないでしょうか。UCLGのように世界各国から自治体関係者が集まるネットワークは、そういった目標のために有益な情報発信の場とも言えるでしょう。

(伊藤所長補佐 浜松市派遣)

